諫皷山若連中　活動報告

役者決め

12 月 19 日　振付の水口一夫先生に来ていただき、役者になる子どもとその保護者、及び、若連中の役員を交えて役者決めを行う。（役者は 5～6 歳から 11～12 歳の男児で山組に関係のある保護者宅に訪問しお願いする。）
また、役者とともに舞台方、御幣持ちなども決める。
なお、今年の外題は、諫皷山の振付師である水口一夫先生が書き下ろした創作歌舞伎「新竹取物語」で、長浜曳山祭りでも初めて披露される演目である。

＜配　役＞

月帝／旅の僧
　松原　大和　10 歳
かぐや姫
　朝日　岳　　12 歳
猿太郎（実は猿）
　川村　駿介　9 歳
お紺（実は狐）
　秀平　和人　10 歳
流星
　中居　篤志　8 歳
舞台方
　秀平　友文　13 歳

＜三　役＞

振付　　水口　一夫
太夫　　竹本　朋太夫
三味線　豊澤　勝二郎

＜御幣使＞

吉安　龍清　　6 歳

＜榊　持＞

上野　修太郎　6 歳
村﨑　蒼士　　6 歳

役者決めの様子

外題　「新竹取物語」

あらすじ　月の世界の帝の元へ、流星が駆けつけます。西王母という神様の植えた桃の実を盗んだ者がいて、捕らえてみれば帝のかぐや姫であったとの報告でした。

その実を食べれば三千年の寿命を得るという言い伝えです。かぐや姫は母の病気を案じ、桃を食べさせようと思ったのです。

帝はかぐや姫を呼び出し問いただします。しかし、月の世界の約束では、桃を盗めば下界へ追放が決まりです。帝は仕方なくかぐや姫を下界に追放します。しかも、ウサギの姿に変えて。

下界は、雪の降る冬の季節でした。とぼとぼと歩くかぐや姫の前に、キツネのお紺と猿の猿太郎が通りかかります。すぐに三人は仲良くなりました。

遊んでいると、寒さに震えながら、みすぼらしい旅の僧がやってまいりました。もう、何日も食事をしていないということでした。

同情した三人は、手分けして食べ物を探しに行くことにしましたが・・・

カツラ・衣装合わせ

2 月 15 日　振付の水口先生、カツラ・衣装業者に来ていただき、役者になる子どもとその父兄、及び、若連中の役員を交えてカツラ・衣装合わせを行った。

カツラ・衣装合わせの様子

囃子の稽古

昨年４月の緊急事態宣言以降休止していた囃子の稽古であったが、コロナ対策として、稽古場の消毒や加湿式空気清浄機、フェイスシールド、飛沫防止パーティション、不織布マスク、アルコール除菌ジェルを購入したことで２月より囃子の稽古を再開（毎週日曜日午後７時より）。

注：長浜曳山祭りでは囃子（はやし）と書いてシャギリと言う。

囃子の稽古の様子

その他の活動

役員寄り

例年であれば、１月中頃に若連中の初寄りが開催されるが、今年のコロナ禍においては、大人数での集会は困難であったことから１月から２月にかけて３

回役員のみで今年の祭りの打合せを行った。

パンフレット委員会

出番時には毎回諫皷山独自のパンフレットを発刊しており、例年であればパンフレットに広告を掲載いただける事業所に若連中の誰が訪問するかを割り振り構成するが、今年は既に昨年度の祭りが中止になる前に広告を集めていたため、新たに広告を掲載していただける事業先は少ないが、昨年度に集めた広告の中で既に廃業された先や事業所を移転された先がありそのチエックと対応等を検討した。

若連中の初寄りの様子（この写真は昨年度のもの）

若連中の総寄りの様子（この写真は昨年度のもの）

初寄り　例年であれば 1 月中頃に開催し祭りの組織（役割分担を発表）を決めて正式に準備にとりかかることとなるが、今年度は 3 月上旬に開催予定。

総寄り　祭りに備えての全体的な打合せであり、狂言（子ども歌舞伎のこと）の行い方等の詳細を決める。例年であれば 2 月下旬から 3 月上旬に行うが、今年度の開催は未定。